



スーパー グローバル ハイスクール

# 佐高 SGH通信 2019

No. 38 (2020年 1月23日発行)

佐高 SGH インスパイア ファイル

## 先輩 佐野高等学校・附属中学校1期生

いたば まさし  
板場 匡史 氏

本校は教育に『国際人として活躍できる真のリーダー』の育成を掲げています。今回はグローバル人材として活躍している佐野高等学校・附属中学校1期生の板場匡史氏に後輩たちへのメッセージをもらうことができました。板場氏はSGHのアソシエイト校であった平成28年の3月に、本校のアソシエイト通信に「飛び立つ1期生、海外の大学へ」でも紹介されています。その時の小見出しは「東京外国語大学言語文化学部フランス語学科→パリ第三大学（新ソルボンヌ大学）でした。



### 板場匡史氏からのメッセージ（佐野高等学校・附属中学校第一期生）

まず、自己紹介から。私の名前は板場匡史です。附属中学校には創立年の2008年に入学しましたので、佐野高等学校・附属中学校第一期生です。2014年、佐野高校卒業後は**東京外国語大学言語文化学部フランス語学科**に進学しました。2016年から2017年にかけては一年ほど、**フランスのパリ第三大学に交換留学**をしていました。2019年から現在にかけて**東京大学大学院でフランス文学**の研究をしています。

### ラグビーワールドカップフランス代表歓迎イベント通訳

そして、昨年9月22日に行われた府中市における**ラグビーワールドカップフランス代表歓迎イベント**にて代表団に対してちょっとした**通訳**を務めることとなりました。通訳とは言っても、府中市から雇われた語学ボランティアのようなもので、実際は些細なものです。というのも、英語もままならないフランス代表に対してその場でフランス語を話せたのは、代表団専属の通訳と市が公式に雇ったプロの通訳、そして私の3人しかおりませんでしたから。私は上記2名の間を埋める形で、イベントの言語的サポートを行いました。具体的には、移動の誘導や府中市民の歓迎の出し物での**フランス語MC**を担当しました。

通路での誘導や物品の授受に際しても、簡素かつ効率的なフランス語でのコミュニケーションが必要なことは確かです。もし本当に海外からの来訪者に快く滞在してもらいたいと思うのなら、高度な語学力はぜひとも必要です。ジェスチャーなどノンバーバルな方法に頼ると、当然ですが誤解が生まれやすく、世間では言葉がなくてもいいですが、それでは脆弱なつながりしか生まれません。その点では私は、短い時間、かつ些細であっても主催者の代理として、府中市民とフランス代表とのコミュニケーションの一助となり、しっかりと役割を果たすことができたと思っています。



## フランス語学習

私がフランス語を学習し始めたのは大学に進学してからのことです。語学は高校在学中から得意でしたが、フランス語を今のレベルにするまで相当研鑽を積んだことは確かです。フィクションではすぐに新たな言語を習得してしまうキャラクターがよく出てきますが、一般的には一つの言語をある程度のものにするには最低でも4年はかかります(その点ではかくいう私も一般人なのです)。私がフランス語を選択したのは、大学受験の時の実際的な理由と自分の芸術や文学が好きという興味関心が微妙に合致していたという、ある種消極的な理由からです。それでも、今ではフランス語の能力はかなりのものになり、今回の大役を果たすことができました。私は自分の経験を茶化して話してしまう質なのですが、実際、私から見ても一瞬であってもVIPの対応ができた今回の経験は貴重であると共に、**自信のつく出来事**でした。しかし、これは単に私のフランス語能力のために経験できたことではありません。

## 高校時代

高校時代の私は今の自分から見ても驚くほどに内気な青年でした。とはいえ、地方という環境や両親が大卒ではないという家庭環境では、そうした性格は宿命的なものではあります。留学や就職活動、大学生活など様々な人生経験を経ていく中で、私は一つの人生に対する見方を得ました。それは、改めて指摘するまでのものでないことは確かですが、多くの人間がそれを認識しつつもできていないことを踏まえれば、それでも重要であることに越したことはありません。つまり、**人生とは挑戦するかしないかであること、自分から行動しなければ何も得られないこと**、そして必ずというわけでもなくとも**努力や挑戦は報いられる**、ということです。

私は中学高校時代と、自分の才能や持てる力というものを全く把握していませんでした。今でこそそのような立場にいるわけですが、当時はゆめゆめ今の状況を予測していませんでした。もし知っていたならば、より多くのことに自信を持って挑んでいたことでしょう。私はこの気づきを得てから、積極的に行動するようになりました。そして、その結果の一つが今回の経験としてあります。

## 終わりに

これは今の私が中高時代の私自身へ伝えたいメッセージであると共に、現在佐野高校・附属中学校で所在もなくくすぶっているであろう数多くの「私」に教えたいことです。世界は想像以上に広く、正しく努力するのであれば君たちは相応に報われるであろうこと。だからこそ、**挑戦をやめてはいけない**のです。

これは容易なことではありません。歳をとれば体がついてこなくなるし、何よりも諦めることはとても簡単です。通勤電車に乗れば、体裁にも気を使わず一心不乱に携帯ゲームに熱中する大人がたくさんいます。私は何も、すぐに大きなことに取り掛かれと言っているわけではありません。それは、日々小さな挑戦と努力をすること、例えばいつもより容姿に気を使ってみる、気になっていたけどできなかったスポーツに挑戦してみるといった些細なことで良いのです。なぜなら、どれほど小さなものであろうと、それは何もしないことよりはるかにマシであるからです。ここまでとりとめもなく書かせていただいた拙筆ではありますが、自戒の意味も込めてサルトルの以下の言葉にて結びとさせていただきます。

**「人間とは、彼が自ら創り上げるものに他ならない」**